

1 キョウニン

2 定量法の項を次のように改める.

3 定量法 本品をすりつぶし、その約0.5 gを精密に量り、薄め
4 たメタノール(9→10) 40 mLを加え、直ちに還流冷却器を付
5 けて30分間加熱し、冷後、ろ過し、薄めたメタノール(9→
6 10)を加えて正確に50 mLとする。この液5 mLを正確に量り、
7 水を加えて正確に10 mLとした後、試料溶液とする。別に定
8 量用アミグダリン約10 mgを精密に量り、薄めたメタノール
9 (1→2)に溶かして正確に50 mLとし、標準溶液とする。試料
10 溶液及び標準溶液10 μ Lずつを正確にとり、次の条件で液体
11 クロマトグラフィー (2.01) により試験を行い、それぞれの
12 液のアミグダリンのピーク面積 A_T 及び A_S を測定する。

13 アミグダリンの量(mg) = $M_S \times A_T / A_S \times 2$

14 M_S : 定量用アミグダリンの秤取量(mg)

15 試験条件

16 検出器 : 紫外吸光光度計(測定波長 : 210 nm)

17 カラム : 内径4.6 mm, 長さ15 cmのステンレス管に5
18 μ mの液体クロマトグラフィー用オクタデシルシリル
19 化シリカゲルを充填する。

20 カラム温度 : 45°C付近の一定温度

21 移動相 : 0.05 mol/Lリン酸二水素ナトリウム試液/メタ
22 ノール混液(5 : 1)

23 流量 : アミグダリンの保持時間が約12分になるように
24 調整する。

25 システム適合性

26 システムの性能 : 標準溶液10 μ Lにつき、上記の条件で
27 操作するとき、アミグダリンのピークの理論段数及び
28 シンメトリー係数は、それぞれ5000段以上、1.5以下
29 である。

30 システムの再現性 : 標準溶液10 μ Lにつき、上記の条件
31 で試験を6回繰り返すとき、アミグダリンのピーク面
32 積の相対標準偏差は1.5%以下である。

33